

露地無側枝性ギクの成長調整剤処理法

【1 成果概要】

- (1) 成長調整剤:プロヘキサジオンカルシウム塩水和剤(商品名:ビビフルフロアブル)を希釈倍率200倍で、発蕾期と摘蕾期の2回処理すると花首長が短くなり、出荷規格に適合する割合が増えます(図2)。
- (2) 「笑の旭」は花首長が短く、花首長に比較し最上位葉が大きいので、成長調整剤の処理は不要です(図1、図2)。なお、「笑の空」「笑の隼」は花首長が短いですが(図2)、花首長に比較し最上位葉がやや小さい場合があるので(図1)、成長調整剤を処理し、品質確保に努めてください。
- (3) 成長調整剤の処理効果は発蕾から摘蕾適期にかけて高いです。図3により処理時期を判定して下さい。

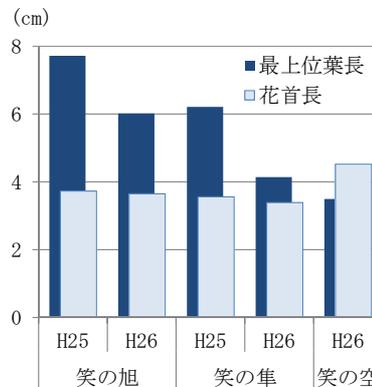


図1 最上位葉長と花首長

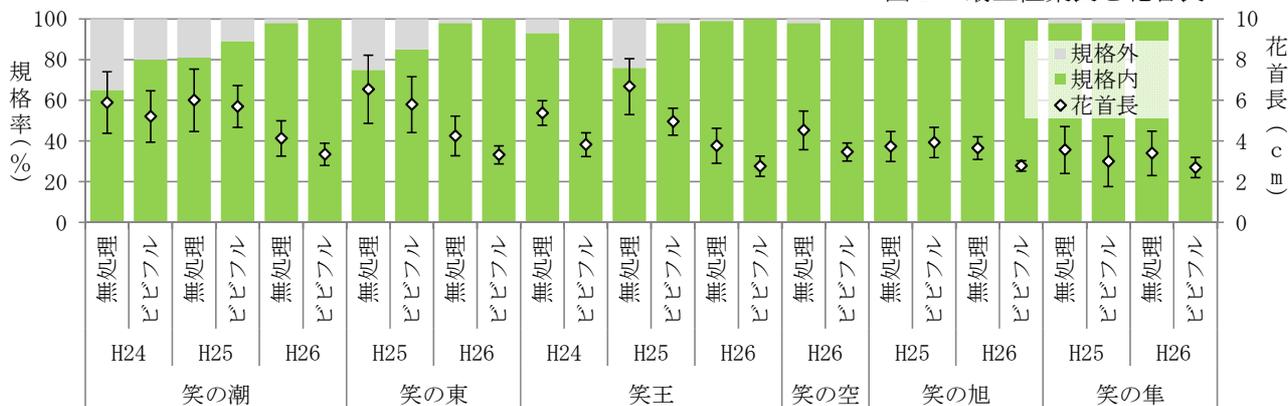


図2 ビビフルフロアブル処理により出荷規格に適合した割合と花首長

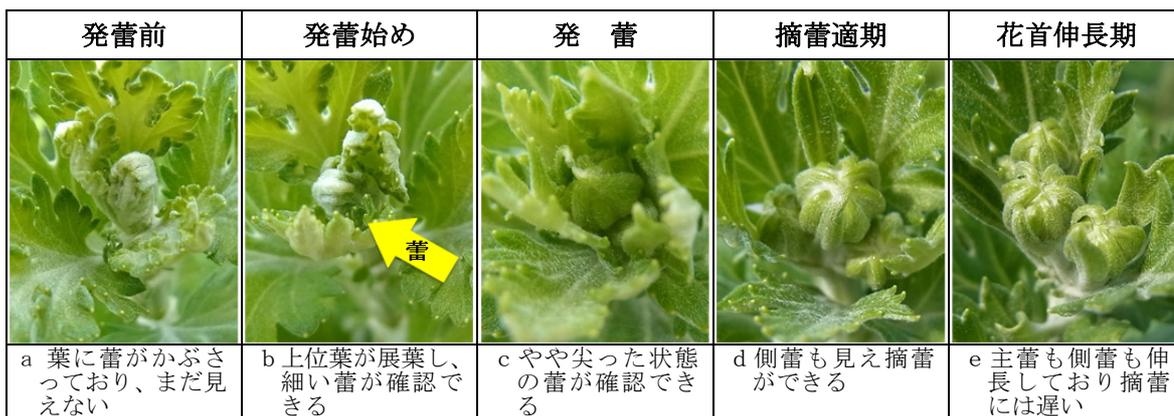


図3 成長調整剤散布時の蕾の発達程度(笑王)

【2 留意事項】

- (1) プロヘキサジオンカルシウム塩水和剤は、黄色系を除く有色系品種では、花色が退色することがあるので使用しないで下さい。農薬登録内容を良くご確認のうえ使用して下さい。
- (2) 切花の出荷規格はJA全農いわて輪菊出荷規格(H26)に基づき、花首長は5cm以内でA品、6cm以内でB品としています。
- (3) 花首長は発蕾時～開花までの降雨の影響を受けるので、年次差があります。

担当研究室 県北農業研究所 園芸研究室

〒028-6222 九戸郡軽米町大字山内23-9-1 TEL. 0195-47-1070 FAX. 0195-49-3011